

- 壁面下地用材( 桟木・縦胴縁・横胴縁・等 ) の概算数量に付いて、  
 $\text{壁面積}(\text{m}^2) \times 5.0 \sim 5.5(\text{m}) = \text{下地用材}(\text{m})$  を基準平均値とする。  
 一般的には  $1.0 \times 20$  寸(  $30 \times 60\text{mm}$  )  $\sim$   $0.8 \times 1.7$  寸(  $24 \times 50\text{mm}$  ) 位の用材を用いること。
- 天井面下地野縁材、 $\sim$  概算数量に付いては内部天井部位の手法による。小天井の場合はなるべく1本拾いすること。
- 裏板面下地野縁材、 $\sim$  ( 軒裏板 ) 概算数量に付いて、  
 裏板張り幅 2 尺(  $600\text{mm}$  ) 以上の場合。  
 $\text{張面積}(\text{m}^2) \times 7.50\text{m} = \text{野縁}(\text{m})$  を基準平均値とする。  
 ※裏板張り幅が上記寸法より小さい場合は  $1.10 \sim 1.15$  の割増しをすること。
- ※ 日本古来の日本建築の伝統工法( 真壁工法 ) による住宅建築の外壁面の仕上げ面積は、床面積の 1.5 倍 を目安としていた。といいつたえられてきた。